

教育部長
指導室長

柏原 公毅
執行 純子

◆部長職からひとこと

教育部長 柏原 公毅



令和２年度は新型コロナウイルスの感染が拡大するなか、市立小・中学校の休校、また、市としてイベント等の自粛、施設の休館等という、かつてない状況でスタートしました。市民生活に大きな影響が生じており、特に、子どもたちの教育機会が失われていることについて、きわめて遺憾であるとともに、一刻も早く感染拡大が収束し、平常の教育活動が再開できることを願ってやみません。

ただでさえ課題が山積している教育行政ですが、今年度はウイルスという見えない相手と向き合いながら課題に取り組むこととなります。ウイルスに負けることなく、よりよい教育の推進を図って参ります。

学校教育、社会教育、相互の連携を図り、さらには市長部局も含めた横断的な取組により、市民の学びを支援します。また、学校施設の適切な維持保全に向けた取組を進めます。

指導室長 執行 純子



時代は平成から令和へ。昨年度末は教育界においても戦後教育において見ることのなかった非常事態に見舞われ、新年度早々予断を許さない状況でスタートしました。いずれにしても今年度も子どもの命と人権を守ることを最優先にした迅速な判断、AIの発達やIoT時代の到来にも屈しない新たな教育・人づくりへのチャレンジ、すべての子どもたち一人一人に応じた教育及び支援の充実をはじめ、そのための環境整備等に努めます。そこで、指導室ではさらなる3Sを目指します

1S Specialist 担当する職務のSpecialistを目指します。

2S Smile 子ども一人一人の笑顔のために職員自らも笑顔で対応します。

3S Smart 最優先課題を優先して取り組み、働き方改革を推進します。

安全・安心して学べる、任せられる学校運営ができるよう支援します。

◆職員数

正規職員204人（うち管理職19人）

再任用職員23人（管理職2人含む）

◆予算（当初）

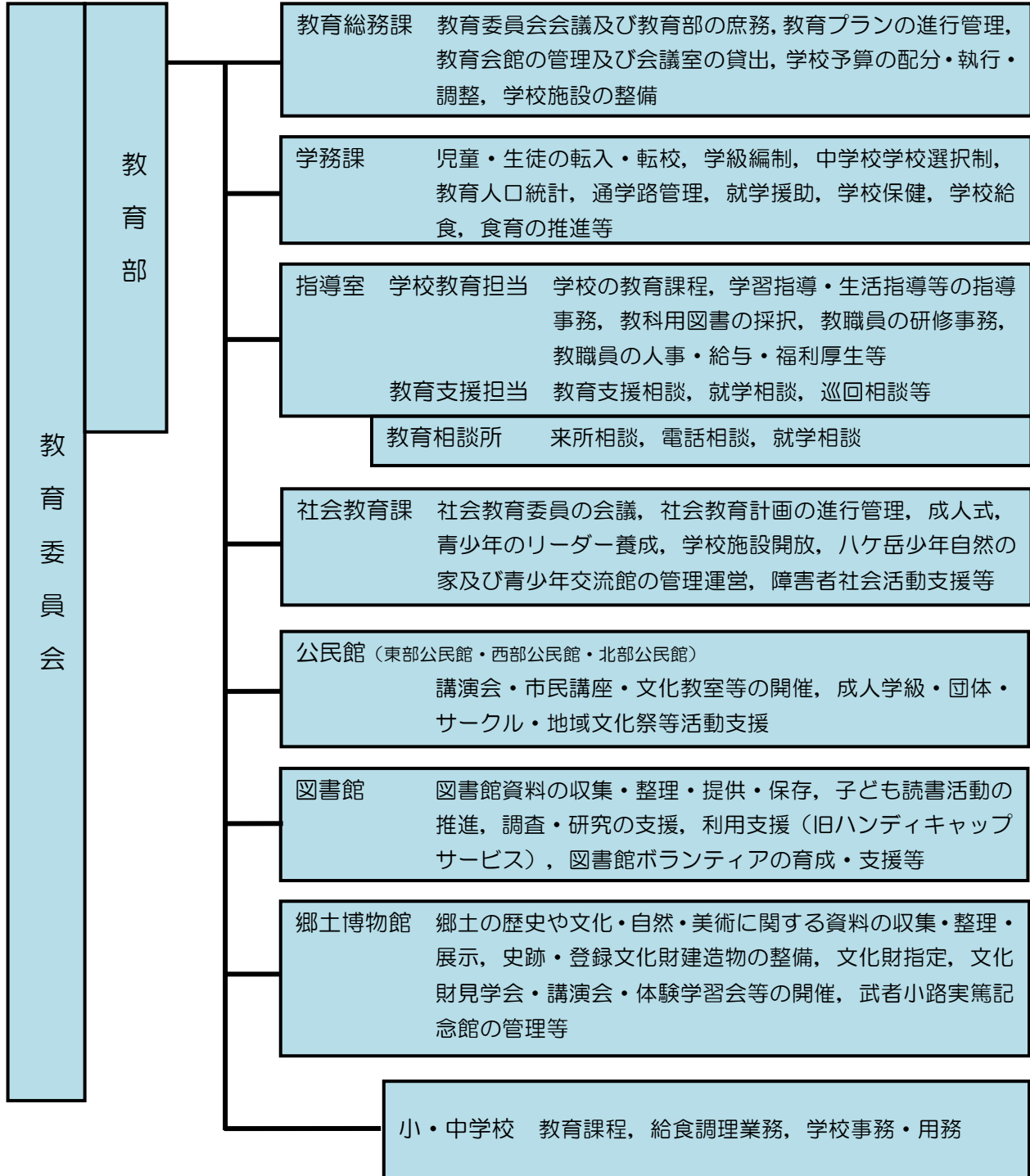
一般会計

歳入 3億7176万6000円

歳出 63億1388万4000円

（職員人件費を除く）

◆組織体系図



◆教育部の現状と課題

1 調布市教育大綱<第2期>及び調布市教育プランに基づく施策の推進

総合教育会議での協議を経て、平成31年3月に策定された調布市教育大綱<第2期>に掲げる基本方針及び市長と教育委員会が連携して取り組む5つのテーマを踏まえ、教育行政を推進していく必要があります。

また、平成31年2月に策定した調布市教育プランに掲げる教育施策や主要事業を着実に推進するとともに、プランの進行管理を的確に行うことが必要です。

基本計画、教育大綱及び教育プランは、いずれも計画2年次目となることから、各施策・事業を着実に推進していくことが必要です。

2 調布市総合教育会議及び開かれた教育行政の取組

市長と教育委員会をメンバーとする総合教育会議において、連携して取り組むテーマを中心に意見交換を重ねてきました。総合教育会議の運営等については、行政経営部と連携しながら、今年度からの調布市教育大綱<第2期>や調布市教育プランを踏まえ、これまでの多様な教育課題や特色ある教育活動等について協議・調整を行うことにより、教育行政を着実に推進していく必要があります。

また、学校や保護者との情報共有を進めるため、教育委員会の情報発信の充実を図る必要があります。

3 学校施設の整備

適切な学習環境を確保するため、児童・生徒数の増加に伴う不足教室等の整備、老朽化対策、災害時に避難所となる学校の体育館における避難所機能の整備と合わせた学習環境の改善のための空調整備などの学校施設整備は、調布市基本計画に基づき着実に進める必要があります。

また、喫緊の課題がある施設整備については、調布市学校施設整備方針に基づき、公共施設マネジメントの推進とも歩調を合わせ、多角的な検討及び具体的な取組の検討が必要です。

4 子どもの安全・安心を確保する取組

(1) 防災教育と防災訓練の充実

東日本大震災を教訓に、毎年4月の第4土曜日を「調布市防災教育の日」として、「命」の授業をはじめとする防災教育の充実と、各小・中学校で作成した初動期における72時間の震災時対応シミュレーションの検証を行っていますが、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止としました。

調布市地域防災計画や前年の訓練、更には令和元年10月の台風19号での避難所開設の経験や感染症への対応等を踏まえ、市職員と学校、警察署、消防署、地域等とのさらなる連携に努め、災害時に即応できる実践的な体制を整備する必要があります。

(2) 食物アレルギー対策

学校・保護者・医師・関係機関等と連携しながら事故防止と緊急対応を柱に、引き続き、国のガイドラインや指針を踏まえつつ、安全・安心な学校づくりを進めていく必要があります。

事故を風化させないよう、「調布市教育委員会食物アレルギー事故再発防止に向けた取組方針」に基づく各種取組の徹底が必要です。

子ども生活部・福祉健康部等、庁内関係部署と連携を密に、検証を重ねながら、調布市全体の取組として、安全対策の充実が求められています。

(3) 通学路の安全確保の更なる推進

学校、保護者、地域及び関係諸機関と連携し、通学路の安全対策を図っています。平成27年度から開始した通学路を撮影する防犯カメラ整備事業については、引き続き、学校やPTA、地域と調整を図りながら設置を進める必要があります。

5 個に応じた支援・指導の充実

(1) 調布市特別支援教育推進計画に基づいた取組の推進

障害者差別解消法の施行や教育機会確保法の成立を受け、平成31年3月に策定した調布市特別支援教育推進計画に基づいた取組を着実に推進し、特別支援教育の充実を図るため令和2年4月、指導室と教育相談所を組織として統合（教育相談所は機関として存置）し、指導室に教育支援担当課長及び担当副主幹を置くなど、組織及び人的な体制の充実を図りました。支援を必要とする子どもたちへ、就学前から卒業後の進路も見据えるなかで、関係機関と連携して子ども一人一人の能力や資質を伸ばし、自己肯定感を育むための切れ目ない支援が行えるよう取り組めます。

令和元年度には市内市立小・中学校全校で校内通級教室における巡回指導を行う体制となり、校内通級教室・通級指導教室（難聴言語等）に通う多数の児童・生徒の実態に応じた個別指導計画の作成と活用による指導の充実が求められています。

今年度は更に児童・生徒一人一人の成長や状況に合わせた指導・支援となるよう校内通級教室の入退級システムを整えます。

(2) いじめ・不登校・子どもの貧困等に対する取組の強化

教育委員会、学校、家庭、地域、社会教育施設等の関係機関が連携しながら、いじめ・不登校・虐待・問題行動・子どもの貧困などの課題や実態を的確に把握し、迅速かつ適切な相談・支援に積極的に取り組む必要があります。また、平成30年4月に設置した分教室型の不登校特例校「第七中学校はしうち教室」や、令和2年4月に新施設へ移転した適応指導教室「太陽の子」の円滑な運営に引き続き努める必要があります。

(3) オリンピック・パラリンピック教育の推進

新型コロナウイルスの感染拡大のため東京2020大会の開催が延期になったことにより、オリンピック・パラリンピック教育については来年度も見据えながら取り組む必要があります。東京都のオリンピック・パラリンピック教育実施方針及び調布市の取組方針等を踏まえつつ、学校教育・社会教育の両分野で、東京2020大会開催時期の変更に係る諸調整を含め、より一層関係団体等との連携・協力を推進することにより、子どもから大人まで、広く機運醸成や大会後のレガシー創出につながる事業を引き続き推進する必要があります。

6 新学習指導要領の実施に伴う学校のICT環境整備と学習活動の充実

（GIGAスクール構想への対応）

新学習指導要領では、「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力と位置づけ、教科等横断的にその育成を図るとともに、その育成のために必要なICT環境を整え、それらを活用した学習活動の充実を図ることとされています。国においては「児童生徒向けの1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するための経費」が、令和元年度補正予算に計上され、文部科学省は、1人1台端末環境は、もはや令和の時代における学校のスタンダードだと示し、ハード・ソフトの両面からの教育改革に取り組むものとして、いわゆるGIGAスクール構想を提唱しました。さらに国の令和2年度補正予算により令和2年度内の整備前倒しによる同構想の加速化が示されたことから、調布市においても、学習活動の充実に向けたICT環境の整備が必要となります。

7 生涯学習社会への対応

(1) 生涯学習社会への対応

市民生活や社会情勢の変化により、地域における課題は複雑化しています。また、生活様式や価値観の多様化により、市民の学習ニーズは多岐にわたっています。人生100年時代を見据え、全ての人が、生涯を通じて自らの人生を設計し活躍することができるよう、必要な知識・技能の習得、知的・人的ネットワークの構築や健康の保持・増進に資する生涯学習を推進し、「学び」と「活動」の循環を形成することが重要です。

(2) 史跡下布田遺跡整備基本計画の策定

国史跡下布田遺跡を活用した普及啓発事業を行うとともに、市民が愛着・親しみを持てる公園となるよう整備基本計画を策定する必要があります。

(3) 図書館の整備

いつでも、どこでも、だれでも利用できる図書館サービス提供のため、施設の老朽化に伴う整備と狭隘化している図書と資料の保存場所の確保が必要です。また、長時間開館、市民対応に必要な職員の確保と育成が必要となっています。

8 新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた対応

国内・都内の新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、児童・生徒、教職員、施設利用者の安全・安心を最優先に、令和2年3月から、国の要請や都立学校の対応、市の対応方針等に基づき、市立小・中学校の休校、イベント等の自粛、施設の休館等、感染拡大防止の各取組を実施しました。

しかし、現在も、感染拡大に伴う市民生活への影響は増大し続けており、特に、休校に伴う児童・生徒への対応については、感染予防対策の徹底や様々な工夫を講じながら、教育機会の確保や個別の支援等に取り組む必要があります。

◆教育部経営方針

1 調布市教育プランの推進と進行管理

教育委員会が掲げる教育目標及び基本方針の実現を図るため、調布市教育プランに掲げる施策や主要事業の着実な推進を図ります。

調布市教育プランの施策・主要事業の進行管理を点検・評価を通じて行います。

2 総合教育会議

調布市教育大綱〈第2期〉の基本方針を踏まえ、市長と教育委員会が課題を共有し、緊密に連携しながら、調布市総合教育会議において、広く協議・調整を行い、多様な教育課題に取り組めます。

3 学校教育

(1) 命の教育活動や人権教育、道徳教育など児童・生徒一人一人の個性を大切にすることを進めることで、命の大切さを自覚するとともに、人の尊厳を重んじ、互いのよさや違いを認め合うことのできる豊かな心の育成を図ります。

(2) 各学校において新学習指導要領に基づき学校教育全体を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、教育課程を編成し児童・生徒が社会の変化に対応できる生きる力を身に付けられるよう努めます。

(3) 健康保持増進、体力向上への支援、オリンピック・パラリンピック教育の推進、食育の推進等の取組を通じて、生きる力の柱となる健やかな体の育成を図ります。

4 学校環境

(1) 計画的な維持保全により、安全で良好な施設環境を保持するとともに、調布市学校施設整備方針に基づく公共施設マネジメントに取り組めます。

(2) 「命の尊さ」について学ぶことや「自らの命は自らが守る」意識を高め、児童・生徒自身が適切な行動様式を身に付けられるよう、各学校において実効的な防災教育を実践します。

(3) 文部科学省「学校給食における食物アレルギー対応指針」や、令和2年3月に改訂した「調布市立学校 食物アレルギー対応マニュアル」に基づき、これまでの改善・強化の取組を継続し、市内小・中学校での統一的な対応を徹底することにより、組織的に食物アレルギー対策に取り組めます。

(4) 児童・生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、通学路の安全確保や児童・生徒の健康管理、学校給食運営における衛生管理等を推進します。

(5) 児童が自分の個性等にあった中学校を自ら選択することによって、自立心の成長を促し、それぞれの個性や可能性をさらに伸ばすとともに、特色ある学校づくりと開かれた学校づくりを

促進します。

- (6) 悩みや不安を抱える子どもや保護者の心に寄り添い、心理・教育・福祉等の専門的な立場から支援する相談事業（来所相談，電話相談，就学相談，教育支援相談，巡回相談）を実施します。
- (7) 新型コロナウイルスにより休業した学校の再開に当たっては，学校施設の消毒や教職員及び児童・生徒への衛生指導等十分に留意したうえで行います。
- (8) 新学習指導要領が目指す児童生徒像の実現のため，文部科学省の提唱するG I G Aスクール構想を踏まえ，市立学校におけるI C T環境の整備やI C Tを活用した学習活動の充実に向けて取組を進めます。

5 学校・家庭・地域の連携

教育委員会・学校・家庭・地域等が連携し，いじめ，不登校，子どもの貧困対策などの課題について，実態把握や迅速な対応・体制強化に継続的に取り組み，未然防止や課題解決を図ります。

地域学校協働本部の活用や地域人材を活用した支援体制の構築を図り，学校，家庭，地域，関係機関が連携し，地域に根差し，地域に開かれた教育活動を推進します。

6 生涯学習社会への対応

- (1) 学習の機会，活動の場所，学習成果の発表の場の提供など，市民の学習活動を支援することで，学習活動の活性化や地域の相互交流を促し，生涯学習・社会教育の振興を図ります。
- (2) 中央図書館と市内10か所の分館の計11館を拠点に，いつでも，どこでも，だれでも気軽に利用できる図書館を目指し活動します。市民の読書活動を推進し，さまざまな情報・資料の収集及び提供を行い，調査・研究の支援や情報提供の場としての機能を果たします。

「第3次調布市子ども読書活動推進計画」に基づき，子どもに関係する機関と連携して，子どもの読書環境の一層の整備・充実を図ります。

さらに，名誉市民である水木しげる氏の著作の収集・提供を通して，その人生や平和の思いを，今後も普及・継承していきます。

映画資料の資料収集・提供を通じ，映画のまち調布の発展に寄与していきます。

- (3) 郷土博物館は，展示や多様な教育普及事業を通して，地域で育まれた伝統文化に触れる機会を市民に提供し，郷土を愛する気持ちを養う事業を行います。

深大寺の地域資源を活かすため，深大寺所蔵の近代文書等の史料目録の作成を進めていきます。また，国史跡下布田遺跡の整備を図るため，整備基本計画の策定を進めます。

7 周年事業の実施

多摩川小学校（50周年），第一小学校（120周年）において，新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ，周年事業の実施方法について検討します。

◆教育部の横断的連携による施策の推進

横断的に連携する3つの統一テーマ

1 台風19号や感染症への対応を踏まえた災害対応

〈現状・課題〉

- ・避難所設置に際し，初動要員や避難所担当職員だけでは，開設に手間どったり，避難者急増に適切な対応が行えないなどの事例がありました。
- ・避難者が短時間で急増したため，避難所運営マニュアルに沿った受付対応では，風雨の中で避難に来られた方をお待たせすることになり，各避難所で臨機応変に対応したものの，今後の風水害に備えた対策が必要です。
- ・ペットの受入れについて，風水害時や荒天時の受入れ場所の再検討や，飼い主への啓発が必要です。
- ・新型コロナウイルス感染症へ対応した避難所の開設方法について，検討が必要です。

〈今後の取組の方向性〉

学校に配属となっている職員を避難所開設、運営に携わる職員として位置付けます。また、関係部署や地域住民等と連携し、避難所開設、避難者への対応、ペットの受入れ、感染症への対応等に関して、避難所の開設訓練の実施や、避難所運営マニュアルの改訂について検討します。

2 東京2020大会の開催延期に伴う対応（パラハートちょうふ関連を含む）

〈現状・課題〉

- ・東京2020大会の開催時期に合わせて実施を予定していた、社会教育施設での各種関連イベント等の扱いを検討する必要があります。
- ・大会延期に伴い、小・中学校におけるオリンピック・パラリンピック教育について、今年度予定していた取組を、来年度での取組として実施することも視野に見直す必要があります。

〈今後の取組の方向性〉

イベント等の来年度での開催を検討するとともに、オリンピック・パラリンピック教育については、東京都の動向を踏まえつつ、来年度までの一連の取組を視野に工夫して推進します。特に、「パラハートちょうふ」をキャッチフレーズに取り組んできた、障がい者理解、共生社会の充実に向けた取組を関係部署、学校、関係者等と連携し、引き続き推進します。

3 新型コロナウイルス感染症対策に関する対応

〈現状・課題〉

- ・児童・生徒の安全・安心の確保と感染拡大防止を図るため、3月2日から5月31日まで小・中学校を臨時休業（春季休業期間を除く）としたことから、子どもたちの学習の遅れや心理的なケアが必要な子どもへの対応等、課題となっています。
- ・学校の休業に伴い、学童クラブ等に通ってはいないものの家庭で過ごすことが困難な児童・生徒のための居場所事業や教室開放事業を、子ども生活部や関係事業者との連携、協力のもと、学校の休業期間に実施しました。
- ・図書館、公民館、郷土博物館等、実篤記念館等の社会教育施設を休館としたことから、市民の生涯学習の機会や活動の場が失われています。

〈今後の取組の方向性〉

学校の再開に当たっては、「調布市立学校における感染症予防ガイドライン（新型コロナウイルス感染症）」に基づき、感染症予防対策を可能な限り講じることとし、令和2年6月1日から、対策を講じながら順次再開しております。今後、夏季休業期間の短縮やカリキュラムの工夫等により子どもたちの学習の機会を確保します。また、休業中及び学校再開後の子どもたちへのケアについては、関係部署や関係機関との連携により、ケアが必要な子どもに対して適切な対応を図ります。

教育部における横断的連携テーマ

1 子どもたち一人一人に応じた教育及び支援の充実

〈現状・課題〉

- ・経済格差の拡大により、教育格差の再生産や固定化につながり、子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されてしまう、いわゆる「貧困の連鎖」が社会問題化しています。
- ・多様な要因から、学校における「学び」に困難を抱える子どもたちに対し、一人一人に応じた様々な支援を図る必要があります。

〈今後の取組の方向性〉

いじめ・不登校・虐待・問題行動・貧困問題など、子どもたちを取り巻く諸課題への対応に向け、行政と関係機関が連携・協力して、一人一人に応じた教育及び支援の充実に取り組みます。

2 安全・安心な学校づくりの推進

〈現状・課題〉

- ・子どもの安全・安心については、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた対応、食物アレルギー対策の推進、通学路等の安全対策等、様々な取組を行っています。
- ・今後も、安心して学ぶことができる教育環境の整備や関係機関との連携を通じて、子どもたちの安全・安心を確保する必要があります。

〈今後の取組の方向性〉

食物アレルギー対策の推進、通学路の安全確保に関わる取組を実施し、安全・安心な学校づくりを進めます。

3 学校施設の整備の推進

〈現状・課題〉

- ・学校施設は、子どもや市民の学習の場であるとともに、地域コミュニティの拠点としての役割や避難所としての役割を担っています。
- ・施設整備に当たっては、教育人口推計や学校の運営状況、施設の利用状況や管理状況などを十分に考慮するとともに、避難所機能の充実やバリアフリー化などの観点を踏まえ、地域の実情に応じた計画的な整備を実施していく必要があります。

〈今後の取組の方向性〉

地域の防災体制づくりとして、昨年度の台風19号に伴う避難所開設の経験を踏まえ、引き続き避難所機能の整備に取り組むほか、長寿命化等の学校施設整備については、公共施設等総合管理計画や学校施設整備方針を踏まえ、(仮称)公共施設マネジメント計画の策定に向けて、多角的な検討及び具体的な取組について検討します。

4 家庭・地域の連携による教育支援

〈現状・課題〉

- ・学校は、地域の避難所になることから、災害時に即応できる体制づくりや地域との連携を進める必要があります。
- ・また、少子高齢化の進行や都市化の進展、ライフスタイルの多様化などに伴い、地域コミュニティの希薄化や、家庭や地域の教育力の低下が指摘されていることから、地域社会における幅広い世代の学習活動を支援することが求められています。

〈今後の取組の方向性〉

学校・家庭・地域が、子どもの教育に関する情報や目標を共有し、意見交換を行いながら、それぞれの役割と責任に基づき、三者の連携によって学校教育を支援・補完する施策を展開します。

5 オリンピック・パラリンピック教育の推進

〈現状・課題〉

- ・新型コロナウイルスの感染拡大により2020年オリンピック・パラリンピック東京大会は開催が1年延期されましたが、東京スタジアム(味の素スタジアム)及びその周辺施設では、バドミントンや7人制ラグビー、近代五種、車椅子バスケットボールなどが開催されます。
- ・令和元年9月から11月にかけては、東京スタジアムで、ラグビーワールドカップの開会式及び開幕戦を含め8試合が開催されました。
- ・世界最大級のスポーツイベントが、調布市において開催されることから、様々な観点から、市のまちづくりへの波及効果を総合的に目指す中で、スポーツへの関心や親しみを高める教育環境づくりが重要です。
- ・調布市は、平成27年度から、公立小・中学校28校すべてが東京都教育委員会のオリンピック・パラリンピック教育推進校として指定を受け今年度で6年目になります。
- ・平成28年度からは、すべての小学校でタグラグビーを授業に取り入れました。

令和元年10月には、第3回調布市小学生タグラグビー大会が開催され、41チームが参加しました。

〈今後の取組の方向性〉

- ・共生社会の充実に向けて育てたい資質である「障害者理解」、「ボランティアマインド」、「国際理解」を重点とし、オリンピック・パラリンピック教育をさらに推進します。
- ・昨年度から継続して「国際的なスポーツ大会を契機とした体力向上事業」の指定を受け、児童・生徒の体力向上の推進とともに、スポーツの世界大会の機会を捉えて、大会後のレガシーにつながる教育を推進します。
- ・引き続き、東京都の実施方針及び調布市の取組方針等を踏まえ、各種の取組を継続するとともに、開催地としての利点を学校教育で最大限に生かせるよう、競技体験・実施競技の啓発、障害者スポーツへの理解促進など、取組を推進し、健康増進や体力向上にもつなげながら、機運醸成に努めます。

◆各課の基本的な目標・方針等

教育総務課

調布市の教育の充実及び振興を図るため、平成31年2月に策定した調布市教育プランの適切な進行管理を行います。

調布市教育大綱に示された、5つの連携テーマの基本的な方向性を、調布市総合教育会議の中で市長と教育委員会が共有し、緊密な連携を図ったうえで、多様な教育課題の解決に取り組みます。

児童・生徒数の増加に伴う不足教室対策として、第八中学校の普通教室整備工事を実施するとともに、若葉小学校の校舎増築に向けた準備を進めます。

学校施設の老朽化対策として、体育館改修工事等を実施するほか、小・中学校16校の体育館へ空調整備を行い学習環境の向上や避難所機能の充実を図ります。

食物アレルギー事故再発防止については、柏野小学校において、食物アレルギー対応専用調理室の設置を含めた給食室改修工事を実施する予定となっていました。新型コロナウイルス感染症の影響により、十分な工期を確保することが困難となったことから、今年度の工事を中止します。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、「調布市防災教育の日」は中止しました。

昨年度、避難所運営において課題となった「避難所開設訓練」については、関係部署や地域住民等と連携し、避難者への対応、ペットの受入れ、感染症への対応等を含め、一部の学校において避難所開設訓練の実施について検討するとともに、避難所運営マニュアルの改訂を検討します。

また、学校に配属となっている職員を避難所開設、運営に携わる職員として位置づけ、避難所開設における職員体制の強化を図ります。

学務課

児童・生徒の良好な教育環境を維持し、健康で安全な学校生活を送れるよう各種の事業の推進を図るとともに、現在、都内の新型コロナウイルス感染症の感染が急速に拡大している現状を踏まえ、学校における保健衛生管理の徹底に努めます。

食物アレルギー対策については、学校給食専門員（管理栄養士）の配置を継続し、令和2年3月に改訂した「調布市立学校 食物アレルギー対応マニュアル」に基づき、これまで改善や充実を図ってきた取組や事故を風化させない取組を継続することで、引き続き、再発防止対策を推進します。

学校保健では、学校保健安全法に基づく健康診断を調布市医師会と連携のうえ実施し、健やかな体の育成を推進します。

学校給食については、安全・安心で美味しい給食の提供に向けて、衛生管理の徹底、食育の推進、委託業務の管理や効率的な運営に努めるほか、給食費管理システムの活用やシステムへのデータ入力作業などの外部委託を行い、学校における徴収・管理業務の効率化を図ります。

登下校時における通学路の安全確保のため、児童通学路見守り員の配置、学校・PTA、調布

警察署、道路管理課等との合同安全点検の実施、通学路を撮影する防犯カメラの増設など、学校、保護者、地域及び関係諸機関と連携して安全対策を図ります。

就学援助については、平成29・30年度から開始した小・中学校入学前の保護者を対象とした「新入学学用品費」の前倒し支給を継続するなど、制度の充実に努めながら、経済的な理由で子どもを就学させることが困難な家庭への支援を図ります。

学校選択制については、平成29・30年度に実施したアンケート調査や制度検証の結果を踏まえ、より良い学校選択ができるよう制度を継続しつつ、制度や学校に関する情報発信の充実に努めます。

指導室

令和2年4月、組織改編により指導室と教育相談所を統合し、指導室に教育支援担当課長及び担当副主幹を置くなど、組織及び人的な体制の充実に努めました。このことにより、支援を必要とする子どもたちについて、関係機関と連携して就学前から卒業後の進路も見据えた切れ目ない支援を行って参ります。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため市立学校の臨時休業措置を実施しました。国や都、市や関係機関の動向も踏まえ、学校の再開に当たっては感染症予防対策を講じることとし、夏季休業期間の短縮やカリキュラムの工夫等により子どもたちの学習の機会を確保して参ります。また、学校再開後の子どもたちへのケアについては、関係部署や関係機関との連携により、ケアが必要な子どもに対して適切な対応を図ります。

【学校教育担当】

調布市教育プランに基づき、「子ども一人一人の生命・人権を大切にする学校づくり」に向け、「安全・安心と共創」をキーワードに、健やかで心豊かな児童・生徒の育成に取り組みます。

東京都の人権尊重教育推進校の指定を受け、指定校である第二小学校を中心として、調布市子ども条例を踏まえた人権教育の推進を図ります。

調布市教育委員会いじめ防止に関する規則及び各学校における「いじめ防止対策基本方針」に沿った取組を推進し、いじめの未然防止・早期発見及びいじめの事実を把握した際の組織的な体制整備に努めます。

4月の「命の授業週間」（臨時休業に伴い延期）や、12月の「いのちと心の教育」月間での取組を通して、「命の尊さ」を学び、一人一人の個性を尊重する教育を推進します。

児童・生徒が安心して学校生活を過ごせるよう支援するとともに、いじめや貧困など、多様な教育課題に的確に対応するため、教育支援コーディネーター室やスクールカウンセラーと連携しながら、一人一人に応じた支援の充実に努めます。

教育経営研究室を活用し、特に増加傾向にある若手教員への研修・指導体制を確立するとともに新学習指導要領の趣旨の実現に向けて、教員の資質・能力の一層の向上を図ります。

調布市特別支援教育推進計画を踏まえ、全小・中学校における校内通級教室の指導の実施や学校及び関係機関との連携の充実等、特別支援教育の推進を図ります。

すべての学校で算数（数学）習熟度別指導を実施し、個に応じた指導を図るとともに、小学校全校に配置している低学年少人数指導講師の指導力の向上を目指します。

社会に開かれた教育課程を編成し、地域協働の学校づくりを推進するために、引き続き地域学校協働本部の設置を推進し、より一層地域と連携した教育活動が展開できるよう体制を整備します。

今年度も市内市立小・中学校全校が、「オリンピック・パラリンピック教育推進校」として指定されています。来年度の開催に向けてオリンピック・パラリンピック教育をより一層推進するとともに、「国際的なスポーツ大会を契機とした体力向上事業」の取組として、運動・スポーツに親しむ児童・生徒を育成し、基礎体力の更なる向上を図ります。また、本事業を活用して、全ての小学校におけるタグラグビーの推進、中学校においては市内市立・私立中学校に在籍する生徒の選抜チームによる「東京駅伝」の成果向上を図るなど、児童・生徒のスポーツへの関心・意欲につながるよう重点的に取り組みます。

新学習指導要領の趣旨の実現に向け、児童・生徒の情報活用能力の育成の推進を図ります。そのために、指導者の授業改善につなげるためタブレット端末の活用の充実を図ります。

また令和2年度は、GIGAスクール構想実現へ向けた児童生徒1人1台端末の整備や校内LAN整備等の推進を行います。学校における働き方改革について、国や都の動向を踏まえて、平成31年1月に策定した「調布市立学校における働き方改革プラン」に基づき、各関係部署と連携し、校務支援システムの活用や出退勤システムの導入など具体的な取組を実施していきます。

【教育支援担当】（教育相談所）

「調布市基本計画」「調布市教育プラン」及び「調布市特別支援教育推進計画」に基づき、悩みや不安を抱える子どもや保護者一人一人に寄り添い、心理・教育・福祉等の専門的な立場から支援するため、個に応じた支援事業を推進します。

不登校児童・生徒の支援事業については適応指導教室「太陽の子」や不登校特例校分教室「第七中学校はしうち教室」の入室に関する相談を丁寧を実施し、入退室検討委員会を適正に運営します。

組織改編により教育相談所は指導室教育支援係に統合されました。分かりやすい相談窓口の広報を行うとともに、関係機関と連携した総合的で切れ目のない支援となるよう継続的に取り組みます。

- ・就学相談の充実
- ・教育支援相談の実施
- ・巡回相談の実施
- ・来所相談の実施
- ・電話相談の充実

社会教育課

市民の自主的な学習活動の育成支援、社会教育団体や学習グループの活動を支援することにより、共同学習・相互学習の活性化を図ります。また、学習の成果等を市民に還元することで、社会教育の振興につなげます。

家庭教育に関する知識や意識の向上を図るため、市内市立小・中学校PTAが企画、実施する家庭教育セミナーに対して、助言や助成等の支援を行います。

社会教育及び家庭教育に関する様々な情報を掲載した社会教育情報紙「コラボ」の発行を通じて、地域や家庭の教育力の向上を図ります。

青少年の健全育成を図るとともに、地域で活躍できる人材の養成を図るため、小学生を対象としたジュニアサブリーダー講習会、中学生を対象としたジュニアリーダー講習会、高校生学齢を対象としたシニアリーダー講習会の実施及び支援を行います。

青少年交流館において、青少年が自由に集まることのできる安全な居場所としての交流スペースを提供することで、青少年同士の交流を図ります。

また、自由で夢のある意見発表の機会として、「調布っ子“夢”発表会」を実施するとともに、活動を通して、まちづくりへの参加意識を高めます。

八ヶ岳少年自然の家において、青少年が様々な体験ができるよう、適切な管理・運営を行います。

障害のある方を対象に様々な社会体験活動を実施することで、集団生活や他人との関わり方などの社会性を学ぶ機会を提供します。今年度は、より安全な運営体制を整えるため、ボランティア等、支援する人員の拡充に取り組みます。

公民館（東部公民館・西部公民館・北部公民館）

地域住民の学習活動の拠点として、また、学習活動を通じて地域住民の交流の場としての役割を果たします。そのため、市民ニーズに基づいた事業や、地域の魅力をテーマとした事業を地域団体等と連携して実施します。また、老朽化した施設の計画的な維持保全に取り組みます。

- ・年齢・性別を問わずだれもが気軽に参加できる学習の機会と場を提供します。

- ・調布市基本計画・調布市教育プラン及び調布市社会教育計画に沿った事業を展開し、市民の学習意欲に応えるとともに、活力ある地域づくりに取り組みます。
- ・地域文化祭をはじめとした市民が主役の公民館活動を展開します。
- ・利用者の円滑な公民館活動の支援として、3公民館合同で利用団体連絡会を開催します。
- ・東部公民館では、地域と連携し、防災や防犯などをテーマとした事業を展開します。
- ・西部公民館では、子育てセミナーや健康、環境などをテーマとした事業の充実を図ります。
- ・北部公民館では、地域と協働で実施する講座や青少年事業の充実に取り組みます。

図書館

中央図書館及び10の分館からなる図書館では、ひとつのシステムを構築し、いつでも、どこでも、だれでも気軽に利用できる図書館を目指して活動しています。

市民の読書活動を推進し、さまざまな情報・資料の収集及び提供を行い、調査・研究の支援拠点であり続けること、さらには、地域に根ざした市民文化の創造に寄与するため、図書館協議会やボランティア活動等、市民の参加と協働を得て、積極的な図書館活動を展開します。

- ・図書館運営体制の充実
- ・図書館資料の収集・整理・提供・保存
- ・児童サービスの充実
- ・調査支援サービスの充実
- ・利用支援（旧ハンディキャップサービス）の充実
- ・図書館ボランティア事業の充実
- ・地域情報化の拠点としての図書館活動の充実
- ・読書会等読書推進活動の充実
- ・市政情報の提供
- ・分館施設の整備（国領分館外壁及び屋上防水改修工事 令和元年度繰越明許事業）
- ・水木しげる氏コーナーの充実
- ・映画資料を含む調布に関する資料の充実
- ・行政内部、各種団体・機関等との連携の推進

郷土博物館

郷土の歴史や文化に関する資料、調布ゆかりの美術作品等を収集し、調査・研究を行い、地域の歴史・文化遺産を保存・記録します。収集した資料については、地域資源として新たな価値を見出し、展示や教育普及事業を実施することで、市民の地域に対する愛着を深めるとともに、地域文化の醸成を図ります。

【郷土博物館事業】

調布市教育プラン及び調布市社会教育計画に沿って、展示や多様な教育普及事業を実施し、地域の歴史や伝統文化に触れる機会を市民に提供します。また、自分たちが住んでいる身近な地域を知ることにより、子どもたちが地域社会の一員としての自覚をもち、地域社会に対する誇りと愛情を育てることができるよう郷土学習の機会を提供します。

学校教育との連携事業については、小・中学校との連携と相互交流を図り、学校からの要望の把握に努め、事業の充実と質の向上を目指します。また、福祉部門とも、シニア世代の市民が地域で生き生きと活動を続けられるよう、展示や講座などを通じて連携を図っていきます。

市民とともに地域の文化財や伝統文化を保護・活用し、文化財を活用した地域づくりを目指します。

(1) 国史跡及び国登録文化財の保存・整備・活用

- ・国史跡下布田遺跡の整備・活用（基本計画事業）に関する整備基本計画の策定
- ・国史跡深大寺城跡の保存・活用の検討
- ・国登録文化財真木家住宅の管理及び保存活用計画の検討

(2) 地域に伝わる伝統芸能

- ・郷土芸能（祭ばやし等）の保存と後継者育成への支援
- (3) 深大寺の歴史・文化遺産
 - ・深大寺近代文書等史料調査
 - ・深大寺白鳳仏関連事業への協力
- (4) 郷土の歴史・文化遺産
 - ・郷土の歴史・文化を核とした展示・普及事業の推進（基本計画事業）
 - ・郷土の歴史・文化遺産に関する資料の調査・研究と収集・保存
 - ・郷土の歴史・文化遺産に関する学習機会についての情報発信
 - ・郷土の歴史や伝統文化について学習活動を行っている市民や市民団体への支援
- (5) 他の部署との連携
 - ・学校教育との連携事業の推進
 - ・福祉・環境部門との連携の取組

【実篤記念館事業】

武者小路実篤の業績を顕彰し、広く市民の教養・文化向上に寄与するため、次の事業目標のもと、調布市教育プラン及び調布市社会教育計画に沿って事業を展開します。また、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館の指定管理期間10年を踏まえた連携や効率的な運営について適切な指導をしていきます。

(1) 武者小路実篤の顕彰

年8回の展示事業を実施することとしていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、春の特別展が来年度に延期となったため、年7回の展示事業を行う予定としています。また、武者小路実篤及び周辺資料の積極的な収集、整理、保存及び調査研究を継続的に実施します。

(2) 武者小路実篤記念館のブランド化（日本で唯一の武者小路実篤研究の情報収集発信基地）

武者小路実篤の顕彰をベースに、「情報収集発信基地」として機能を充実させ、内外に情報発信できる日本で唯一の「実篤・白樺・新しき村の研究施設」を目指します。

(3) 次代を担う子どもへのアプローチと利用の拡大

子どもへの積極的な働きかけにより、未来の来館者の育成と郷土愛を育む取組を実施します。

(4) 武者小路実篤記念館と実篤公園を活用した事業展開

実篤記念館及び実篤公園について、より効率的で効果的な運営体制の構築を目指します。また、登録有形文化財に指定された旧実篤邸の新たな活用方法を検討して参ります。

◆ **主要な事務事業と到達目標**

事業の名称と概要	年度末到達目標
<p>1 小・中学校施設の整備（教育総務課）</p> <p>事業予算：20億303万7000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>児童・生徒数の増加に伴う不足教室対策等のため、設計・工事を行います。</p> <p>学校施設の老朽化対策として、令和3年度に実施を予定している改修工事等の設計を実施するとともに、小・中学校体育館の改修等の工事を実施します。</p> <p>食物アレルギー事故再発防止については、柏野小学校において、食物アレルギー対応専用調理室の設置を含めた給食室改修工事を実施する予定となりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、十分な工期を確保することが困難となったことから、今年度の工事を中止します。</p> <p>その他、小・中学校体育館への空調整備を実施し学習環境の向上を図</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒数の増加に伴う不足教室対策等のため、校舎増築の基本・実施設計及び仮設校舎増築工事（若葉小）並びに普通教室整備工事（第八中）を実施します。 ・体育館内部・外部改修工事（北ノ台小，第七中）を実施します。 ・体育館内部改修工事（布田小，第四中）を実施します。 ・体育館空調整備（（工事）第一小，滝坂小，染地小，北ノ台小，

<p>るほか、避難所機能の充実に努めます。</p> <p>また、長寿命化等の学校施設整備については、公共施設等総合管理計画や学校施設整備方針を踏まえ、(仮称)公共施設マネジメント計画の策定に向けて、多角的な検討及び具体的な取組について検討します。</p>	<p>布田小，調和小，第四中，第七中，(リース)第三小，深大寺小，上ノ原小，石原小，緑ヶ丘小，多摩川小，杉森小，第三中第二体育館)を実施します。</p>
<p>2 通学路の安全確保の推進(学務課)</p> <p>事業予算：1782万8000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>児童通学見守り員の配置，通学路標示板の設置，通学路マップの作成，防犯カメラの設置等を通じて通学路の安全確保を推進するとともに，学校，保護者，地域との連携で通学路の安全対策を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路の防犯カメラの計画的な整備と適正な運用を推進します。 ・市立小学校と要望場所を調整し，全校の通学路等に各校1台程度，防犯カメラを追加設置します。
<p>3 食物アレルギー対策の推進(学務課)</p> <p>事業予算：243万5000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>改訂した「調布市立学校 食物アレルギー対応マニュアル」を適正に運用するとともに，学校給食専門員(管理栄養士)の配置を継続し，引き続き，食物アレルギー対策を進めます。</p> <p>食物アレルギー対応の検証・改善については，食に関する検討委員会において検討を継続します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門医による研修の実施，給食対応の検討，医師会との連携，会計年度任用職員として学校給食専門員(管理栄養士)の配置などの取組を継続し，食物アレルギー事故の再発防止策を実施します。
<p>4 就学援助費の支給(学務課)</p> <p>事業予算：1億5185万3000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>経済的理由により就学困難な児童・生徒の保護者を援助し，引き続き，義務教育の円滑な遂行を図るための支援を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校入学前の保護者を対象とした「新入学学用品費」の前倒し支給の継続や，新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた申請期間の弾力的な運用など，制度の充実に努めます。
<p>5 学校における保健衛生管理の推進(学務課)</p> <p>事業予算：516万2000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染予防対策や適切な傷病対応を図り，学校保健・衛生管理の取組の徹底に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校の再開時に使用する消毒などの保健衛生用品や，主に保健室で傷病対応に必要な絆創膏・体温計等の購入により，学校における保健衛生管理を推進します。
<p>6 学校給食調理業務等の民間委託の推進(学務課)</p> <p>事業予算：4億709万6000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>市内小学校で実施している学校給食調理の民間委託について，新たに民間委託した八雲台小学校を含め，業務管理を推進し，安定運営に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市立小学校20校のうち12校で実施している学校給食調理の民間委託を推進します。
<p>7 命の教育活動の推進(指導室)</p> <p>事業予算：450万3000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から「調布市防災教育の日」は中止としましたが，4月の命の授業週間は延期して実施予定とします。また，児童・生徒及び教員に対する救命講習を実施します。</p> <p>毎年12月を「いのちと心の教育」月間とし，自他の生命(いのち)を大切にすることや，一人一人の違いを認め合う道徳の授業を実施します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員に対する上級救命講習は，新規講習及び再講習(更新)の受講を実施し，応急手当技能の維持・向上に努めます。 ・平成25年から取組を開始した「いのちと心の教育」月間により，全児童・生徒及び教員に限らず，調布市全体の取組として周知することを目指します。

<p>8 特別支援教育の推進（指導室）</p> <p>事業予算：4483万5000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>調布市特別支援教育推進計画に基づき、校内通級教室における巡回指導等、特別支援教育の更なる充実に努めます。</p> <p>市立小・中学校へスクールサポーターを配置し、個々の状況に合わせた教育的支援を行います。</p> <p>また、校内通級教室においても教員がタブレットを使用して、個々の児童に合った指導に取り組むなど、児童へのタブレット導入時の合理的配慮への対応の研究を推進します。</p> <p>さらに、特別支援教室専門員（都費）を昨年度に引き続き、市立小学校全校に各1人配置することに加え、市立中学校全校に各1人、配置します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールサポーターの活用により、児童・生徒の個々の状況に合わせたきめ細かな支援を図ります。 ・巡回指導により、通常学級の教員も、特別支援教育について理解し、通常の学級においてもその理念が生かされることを目指します。
<p>9 地域人材を活用した教育活動推進（指導室）</p> <p>事業予算：6158万8000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>地域住民が、ボランティアとして、学校の教育活動を支援する地域学校協働本部について、昨年度から4校加え、24校で実施します。</p> <p>また、統括コーディネーターを1人配置し、実施校の体制づくりを推進するとともに、コーディネーター間の連絡・調整等、各校の活動の充実に図ります。</p> <p>さらに、教育活動を支援する学校ボランティアが、利用しやすく、活動が活発になるよう広報に努め、活動の活性化を図ります。</p> <p>【地域学校協働本部実施校】</p> <p>第八中学校・深大寺小学校・若葉小学校・国領小学校・滝坂小学校 第五中学校・布田小学校・多摩川小学校・神代中学校・第四中学校 第七中学校・八雲台小学校・北ノ台小学校・調布中学校・第三中学校 第六中学校・第三小学校・上ノ原小学校・緑ヶ丘小学校・調和小学校 （今年度新規） 第一小学校、富士見台小学校、杉森小学校、柏野小学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携をより充実させ、地域の特性を生かした教育活動の充実に図ります。 ・実施校での取組を広く周知することで、各校での「地域に開かれた学校づくり」を活性化します。 ・統括コーディネーターによる各学校のコーディネーターへの支援・運営アドバイスを実施し、学校間連携や小・中連携を推進するとともに、地域人材による教育活動の充実に図ります。
<p>10 教員の資質・能力向上（指導室）</p> <p>事業予算：146万4000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>児童・生徒の健やかな成長に向け、増加傾向にある若手教員の指導力向上と、人権感覚に優れた教員の育成など、教員の資質、能力向上を目指し、教育経営研究室の研究員と連携し、効果的な研修体制の確立と研修の実施を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当指導主事、学校経営研究室及び「調布市授業力向上推進講師」が連携し、若手教員等への研修や各校での研修を通じて、授業研究の充実に努め、学習指導力及び生活指導力等を身に付けた教員を育成します。
<p>11 学校における働き方改革の推進（指導室）</p> <p>事業予算：1億630万円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>「調布市立学校における働き方改革プラン」に基づき、校務支援システムや出退勤システムの導入等の環境整備をすることにより、学校教育の質の維持向上を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「調布市立学校における働き方改革プラン」の内容について、計画的に、学校と協力して目標達成に取り組めます

<p>12 オリンピック・パラリンピック教育の推進（指導室）</p> <p>事業予算： 680万円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>市内市立小・中学校全校がオリンピック・パラリンピック教育推進校に指定されたことから、オリンピック・パラリンピックの歴史や精神、スポーツや交流、国際理解や日本の伝統文化・芸能、環境やボランティアの4つのテーマを基本に、学ぶ（知る）、観る、する（体験・交流）、支えるの4つのアクションを結びつけた多彩な教育活動を展開して、運動・スポーツに親しむ児童・生徒を育成し、基礎体力の向上を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4つのテーマに基づいた年間指導計画を作成・活用し、東京2020大会の開催に向けて、児童・生徒の関わりをさらに深めます。 ・車いすバスケットボールの国際大会等市内で開催される大会等における児童・生徒の観戦を実施します。
<p>13 体力向上への支援（指導室）</p> <p>事業予算： 398万円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>児童・生徒の体力面や運動習慣等の実態を把握しながら、体力向上や健康増進等を推進するとともに、地域学校協働活動推進事業を活用した部活動外部指導員・水泳指導員・授業補助員などを通じ、児童・生徒の体力向上に向けた支援に取り組みます。</p> <p>また、令和元年度、令和2年度に東京都から「国際的なスポーツ大会を契機とした体力向上事業」に指定されたことから、運動・スポーツに親しむことができる機会や場を設定します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働活動推進事業における部活動支援に引き続き取り組むとともに、水泳指導員等の活用についても充実を図ります。 ・「国際的なスポーツ大会を契機とした体力向上事業」を通じて「する・みる・支える・知る」のスポーツの多様な関わり方の推進に取り組みます。
<p>14 スクールカウンセリングの実施（指導室）</p> <p>事業予算：1663万円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>市立小・中学校全28校に調布市（市費）スクールカウンセラーを配置します。</p> <p>平成25年度から全校配置となった、東京都公立学校（都費）スクールカウンセラーと合わせて、2人体制で、学校教職員と連携しながら児童・生徒へのカウンセリングなどの相談活動を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーと教育支援コーディネーターやスクールソーシャルワーカー、特別支援教育コーディネーターが連携し、いじめの未然防止や早期発見・不登校の対策など、個に応じた支援の充実に努めます。
<p>15 教員のICT活用能力の向上（指導室）</p> <p>事業予算：1億7708万2000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>ICT教育の推進を図るために、市立小・中学校の教員に配置したタブレット端末を活用し、効果的な授業を展開するなど、教員のICT活用能力の向上に引き続き取り組みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市立小・中学校の教員がタブレット端末を活用した授業が行えるよう、教員を対象とした研修を実施します。
<p>16 児童・生徒におけるICT教育の推進（指導室）</p> <p>事業予算：7156万3000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>文部科学省の第3期教育振興基本計画（2018～2022年度）において、ICT利活用のための基盤の整備が目標とされていることから、小学校においてデスクトップ型パソコンを各教室で使用できる児童用タブレット端末へ更新し、新学習指導要領に示された情報活用能力の育成と個別最適化された学びの実現につなげます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校においてデスクトップ型パソコンを各教室で使用できる児童用タブレット端末へ更新し、児童の情報活用能力育成に向けた環境を整備します。
<p>17 不登校児童・生徒への支援（指導室）</p> <p>事業予算：834万2000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>適応指導教室「太陽の子」や不登校特例校分教室「第七中学校はしうち教室」の入室に関する相談を丁寧に実施し、入退室検討委員会を適正に運営します。不登校児童・生徒に対し、多様な学びの場を提供するとともに、メンタルフレンド等の不登校プロジェクトを通じ、一人一人の実情に合わせたきめ細かな支援と保護者に対する情報提供に努めます</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい施設となった小学校適応指導教室（太陽の子）の円滑な運営に努めます。 ・不登校特例校「第七中学校はしうち教室」においては太陽の子施設を状況に応じて活用し学習支援を行います。

<p>18 相談事業（指導室）</p> <p>事業予算：7941万円＜基本計画事業 行革P その他></p> <p>来所相談，就学相談ともに相談の多様化，複雑化に対応し丁寧な相談を継続します。また，昨年10月からスタートした原則月1回の土曜日相談を通年で実施し相談者の利便性の向上を図ります。</p> <p>就学相談については，就学支援委員会の委員に医師を加え，就学先の決定のみならず，その後の支援についても専門家の助言を求めることができるよう運営していきます。</p> <p>電話相談については，教育・心理・福祉の専門家が相談者に寄り添い，悩みや不安を傾聴するとともに，必要に応じて関係機関と連携し，相談者の悩み等の早期解決に向けて支援を行います。</p> <p>教育支援コーディネーターおよびスクールソーシャルワーカーについては，教育全般についての相談を受け付け，学校や家庭に入り，関係機関と連携しながら教育支援をコーディネートしていきます。</p> <p>組織改編により教育相談所は指導室教育支援係に統合し，分かりやすい相談窓口の広報を行うとともに，関係機関と連携した総合的で切れ目のない支援体制を整備します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就学相談については12月中に答申されるように，スケジュールに沿った計画的な運営を行います。
<p>19 リーダー養成講習会の実施（社会教育課）</p> <p>事業予算：322万7000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>青少年の健全育成を図るとともに，地域で活躍できる人材の養成を図るため，小学生を対象としたジュニアサブリーダー講習会，中学生を対象としたジュニアリーダー講習会，高校生学齢を対象としたシニアリーダー講習会の実施及び支援を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で活躍できる人材を養成するため，各講習会を実施します。
<p>20 成人式の開催（社会教育課）</p> <p>事業予算：253万2000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>新成人の門出を祝福し，その前途を激励するため，例年，成人式を開催しております。令和3年成人式の開催に向けては，新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら，適切に判断して参ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調布市の若者の意見が取り入れられるよう創意工夫を図ります。
<p>21 地域に根差した公民館活動の推進（公民館）</p> <p>事業予算：584万4000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>市民の学習意欲に応える事業の実施をはじめ，地域の課題や特性を題材にした事業を開催し，地域に根差した公民館活動を展開します。</p> <p>地域で活動する人を講師に迎え事業を行うことで，地域を知り，さまざまな地域環境を整備することで，交流を深められる公民館活動に取り組みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で活動する団体や人と協働した事業を実施します。 ・公民館利用団体の活動が，地域交流の活性化に寄与するよう支援します。 ・オリンピック，パラリンピックの機運を高める事業に取り組みます。 ・平和の尊さや戦争の悲惨さを風化させない事業を実施します。
<p>22 公民館施設の維持保全（公民館）</p> <p>事業予算：2287万9000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>施設のバリアフリー化や老朽化した施設の維持保全を推進し，地域住民の社会教育活動の拠点となる公民館の学習環境を整えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東部公民館のエレベーター棟の増築設計，外壁改修・屋上防水の設計を行います。 ・北部公民館のLED化と受変電設備の撤去を行います。
<p>23 子ども読書活動の推進（図書館）</p> <p>事業予算：7万8000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>「第3次調布市子ども読書活動推進計画」に基づき，子どもの読書環</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに関係する機関・部署との連携を図り，子どもの読書活動を推進します。

<p>境の整備・充実を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で活動する団体や家庭へは、子どもの読書活動について啓発します。
<p>24 市民の読書・調査活動への支援（図書館） 事業予算：3億5498万9000円<基本計画事業 行革P その他> 市民の生涯学習・文化・生活に関わる情報の拠点として、暮らしに役立つ魅力ある図書館を目指して、市民に求められる資料・情報を選定し、収集・提供の充実を図ります。 また、地域資料・映画資料をはじめとする貴重な資料を後世に残すため、デジタル化を行います。 資料を適正に管理するために必要な保存場所の確保について検討していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・収集方針に基づき、資料の選定を行い、幅広い市民が利用できる資料の収集及び提供を推進します。 ・貴重な資料を後世に残すため、デジタル化を行います。 ・資料の保存場所については、関係部署との協議に加え、多摩地域が共同で取り組む資料の保存についても検討を進めます。
<p>25 国史跡下布田遺跡の整備・活用（郷土博物館） 事業予算：808万5000円 <基本計画事業 行革P その他> 国史跡として指定された下布田遺跡を保存・活用していくため、計画的に取得した用地について、将来的に史跡公園として整備し、市民に開放していくため、平成30年度に策定した保存活用計画に基づき、整備基本計画の策定を進めます。 整備基本計画策定に向けた調査・審議を行う国史跡下布田遺跡整備基本計画策定委員会を開催します。2か年事業の最終年度に当たる今年度は、市民参加も図りながら、整備基本計画を策定し、計画書を刊行します。 また、史跡下布田遺跡を活用した普及啓発事業を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国史跡下布田遺跡整備基本計画策定委員会を開催します。 ・史跡内における見学会、体験学習会等を実施します。
<p>26 郷土の歴史・文化を核とした展示・普及事業の推進 事業予算：343万1000円 <基本計画事業 行革P その他> 郷土の歴史や文化遺産に関する資料の展示や講座・講演会等の実施により、市民に地域ゆかりの歴史や文化遺産に親しむ機会を提供します。 今年度の企画展では、東京2020大会開催に向けた機運醸成を図り、1964年の東京オリンピックを当館収蔵品から振り返る展示などを開催します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展、郷土学習展を開催します。 ・講座、講演会、見学会等を実施します。 ・子どもや親子を対象とする体験事業「子どもはくぶつかん」を実施します。 ・学校教育連携事業を推進します。 ・福祉関係部門との連携を推進します。
<p>27 武者小路実篤記念館の管理・運営 事業予算：3013万3000円 <基本計画事業 行革P その他> 一般財団法人調布市武者小路実篤記念館を指定管理者として指定し、経営努力による効果的・効率的な施設の管理運営に努めるとともに、実篤の顕彰を目的とし、充実した事業展開を進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・展示、関連事業、収蔵品の管理・整備と指定管理による施設管理を一体化することにより、効率的な運営を目指します。

◆教育部経営の前年度（令和元年度）振り返り

<p>1 総合教育会議の開催 市長と教育委員会をメンバーとする総合教育会議を1回開催し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る市及び教育委員会の取組等について協議しました。</p> <p>2 老朽化した施設の整備及び今後の学校施設の在り方検討 老朽化対策として、公共建築物維持保全計画に基づき、校舎の屋上防水工事・外壁改修工事及び体育館の改修工事を実施したほか、喫緊の課題のある学校について、今後の学校施設の在</p>

り方等の具体的な検討を行いました。

3 子どもの安全・安心を確保する取組

(1) 防災教育と防災訓練の充実

令和元年度の調布市防災教育の日は、8回目の実施となり、前年度に引き続き、参加者数は3万人を超えました。東日本大震災を過去のものとして、その教訓から学ぶため、被災地から講師を招き、実際の体験に基づいた啓発講話を広く保護者・地域向けに実施しました。

庁内各部との連携により、避難所担当職員と初動要員を全校に派遣して引継訓練を実施し、避難所開設訓練を実践的に行うとともに、各校の避難所運営訓練において、昨年度に引き続き市職員主導による「避難所におけるトイレの確保・管理」をテーマとした全校統一メニューを実施しました。各避難所の災害時のトイレ状況を確認し、災害時に使用するマンホールトイレ又は組立トイレを設営するとともに、避難所におけるトイレの課題を地域・学校関係者等と共有し、理解を深めました。

また、消防署員の全校派遣や、市内全ての都立高等学校（調布北、調布南、神代）と連携した避難訓練等の実施、晃華学園中学校高等学校、明治大学付属明治高等学校・中学校に加え、新たに桐朋女子中学校・高等学校にて連携した避難訓練等を実施しました。調布南高校では、平成26年度から継続して小学校の避難所運営訓練における災害ボランティアとして参加するなど、学校や関係機関との連携を図りました。

(2) AEDの全校2台配備及び救命講習の受講

緊急時に迅速な対応を可能とするため、市立小・中学校全校で2台のAEDを配備しています。また、市立小学校6年生及び市立中学校3年生全員が普通救命講習を受講し、教員も上級救命講習を受講するなど、緊急時の救命に係る技能の習得に努めました。

(3) 食物アレルギー対策

「調布市立学校食物アレルギー対応マニュアル」に基づき、学校・保護者・専門医・医師会等と連携しながら、事故防止及び緊急対応の両面から、各種の研修、校内訓練、慈恵医大第三病院ホットラインの運用等の対策を実施し、安全確保に努めました。また、3月に同マニュアルを改訂しました。

不必要な除去を減らし、一層安全に対応するため、医師会の協力により、現在の症状等の再確認やより適切な対応に関するセカンドオピニオンを促しました。

食物アレルギー専門医師・管理栄養士の助言の下、各学校で実施する研修・訓練について、実態を踏まえつつ、統一的・実践的な内容を示す資料を作成しました。

緑ヶ丘小学校で食物アレルギー対応専用調理室の設置を含めた給食室改修工事を実施するとともに、柏野小学校給食室改修工事の設計を実施しました。

(4) 通学路の安全確保

登下校時における通学路の安全確保の推進を図るため、東京都の補助制度を活用し、道路上の既存の電柱から通学路を撮影する防犯カメラを、市内市立小学校全校の通学路に設置しました。また、調布市受動喫煙防止条例の施行に伴い、通学路において子どもに受動喫煙を生じさせないよう配慮すること等を啓発するため、市内の通学路標示板全てを啓発用デザインの標示板に更新いたしました。

4 教科書採択

令和2～5年度に小学校で使用する全ての教科用図書、令和2年度に中学校で使用する全ての教科用図書及び小・中学校の特別支援学級で使用する教科用図書の採択について、円滑かつ公正に実施しました。

5 個に応じた支援・指導の充実

スクールサポーターを市内市立小・中学校全校に配置し、特別な支援を要する児童・生徒一人一人の状況に合わせたきめ細かな教育的支援を行いました。また、調布市特別支援教育推進計画に基づき、市内市立中学校全校に校内通級教室を設置し、巡回指導の体制を整えました。

◆前年度の主要な事務事業の取組状況等

事業の名称と取組内容	達成状況・課題等
<p>1 小・中学校施設の整備（教育総務課・指導室） 決算見込額：19億4128万円 <基本計画事業 行革P その他> 児童・生徒数の増加に伴う不足教室対策等のため、第二小学校で仮設校舎（リース）の整備を完了しました。 学校施設の老朽化対策として、公共建築物維持保全計画に基づく屋上防水工事、校舎外壁改修工事及び体育館の改修工事を実施しました。 食物アレルギー事故再発防止に向けて、緑ヶ丘小学校で食物アレルギー対応専用調理室の設置を含めた給食室改修工事を実施しました。また、柏野小学校で給食室改修工事の設計を実施しました。 中学校5校の体育館への空調整備を実施し学習環境の向上を図るほか、避難所機能の充実に努めました。 その他、長寿命化等の学校施設整備については、喫緊の課題のある学校について、今後の学校施設の在り方等の具体的な検討を行いました。 不登校児童への支援の充実に図るため、適応指導教室「太陽の子」の施設を調布市民大町スポーツ施設の敷地内に整備しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設校舎（リース）増築工事（第二小）を完了しました。 ・普通教室改修工事（滝坂小）を実施しました。 ・校舎外壁及び防水工事（国領小）、校舎外壁改修工事（石原小）を実施しました。 ・体育館内・外部改修工事（多摩川小）、体育館内部改修工事（第六中）を実施しました。 ・体育館空調整備工事（神代中（繰越明許）、第八中（繰越明許）、調布中、第三中、第六中）を実施しました。 ・令和2年度に向けた小学校体育館への空調設備整備の準備を進めました。 ・喫緊の課題のある学校について、今後の学校施設の在り方等の具体的な検討を行いました。 ・適応指導教室「太陽の子」の施設が完成しました。
<p>2 食物アレルギー対策の推進（学務課） 決算見込額：213万6000円 <基本計画事業 行革P その他> 「調布市立学校 食物アレルギー対応マニュアル」を適正に運用し、食物アレルギー対策に努めました。 医師会との連携により、不必要な除去対応を減らすためのセカンドオピニオンを実施しました。 また、食に関する検討委員会においては、中学校における対応の現状把握と改善検討を進めました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門医師による研修の実施、完全除去に係る調理器具・備品等の整備、医師会との連携などの取組を継続し、食物アレルギー事故の再発防止に努めました。 ・対応マニュアルを改訂し、各校へ配布しました。
<p>3 学校給食調理業務等の民間委託の推進（学務課） 決算見込額：3億9317万2000円 <基本計画事業 行革P その他> 市内小学校で実施している学校給食調理の民間委託について、給食室改修工事を実施した緑ヶ丘小学校の事業者再選定を実施しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市立小学校20校のうち12校で実施している学校給食調理の民間委託を継続するとともに、緑ヶ丘小学校の事業者再選定を実施しました。
<p>4 給食室備品（大型厨房機器類）老朽化対策の推進（学務課） 決算見込額：7473万4000円 <基本計画事業 行革P その他> 老朽化の進んだ小学校給食室の厨房機器を、計画的なリース・購入により更新し、安全・安心で美味しい学校給食を提供できる調理環境の維持・充実に努めました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的なリース・購入により、小学校給食室の厨房機器（食器洗浄機2台・真空冷却機1台・立体式炊飯器3台・熱風消毒保管庫6台・スライサー2台ほか）を更新し、調理環境の維持・充実に努めました。

<p>5 通学路防犯設備整備事業（学務課）</p> <p>決算見込額：724万1000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>市立小学校全校に1台ずつ、道路上の既存の電柱に通学路を撮影する防犯カメラを設置し、合計で120台となりました。併せて犯罪抑止力を高めるため、設置周辺の既存の電柱12箇所を防犯カメラが設置されている区域であることを表示する「啓発用巻き看板」を設置しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 防犯カメラの整備・運用に当たっては、周辺住民のプライバシー保護に配慮しつつ、適正な運用を行い、児童・生徒の安全確保に努めました。
<p>6 命の教育活動の推進（指導室）</p> <p>決算見込額：341万6000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>「調布市防災教育の日（4月27日）」に、「命を守る授業」や防災について保護者・地域に啓発をするための専門家による公開講座を実施したほか、児童・生徒及び教員に対する救命講習や応急手当普及員講習（各校2人程度）を実施しました。</p> <p>また、毎年12月を「いのちと心の教育」月間とし、自他の生命（いのち）を大切にすることや、一人一人の違いを認め合う道徳の授業の充実を図りました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 防災教育の日、児童・生徒対象の普通救命講習、教員対象の上級救命講習を計画に沿って実施しました。応急手当普及員資格を各校1～2人が取得しました。 平成25年度から取組を開始した「いのちと心の教育」月間により、全児童・生徒及び教員に限らず、市全体の取組として周知しました。
<p>7 特別支援教育の推進（指導室・教育相談所）</p> <p>決算見込額：3241万2000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>引き続き、特別な支援を要する児童・生徒に対し、市内市立小・中学校全校において、スクールサポーターを配置し、個々の状況に合わせた教育的支援を行いました。また、第八中学校で「発達障害の可能性のある児童生徒等に対する支援事業」に取り組み、教員の意識啓発に努めました。</p> <p>校内通級教室の巡回指導について、教員と特別支援教室専門員とによる体制で実施しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> スクールサポーターの配置により、児童・生徒の個々の状況に合わせたきめ細かな支援を行うことができました。
<p>8 地域人材を活用した教育活動の推進（指導室）</p> <p>決算見込額：3953万2000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>地域住民がボランティアとして学校の教育活動を支援する地域学校協働本部について、第八中学校、深大寺小学校、若葉小学校、国領小学校、滝坂小学校、第五中学校、布田小学校、多摩川小学校、神代中学校、第四中学校、第七中学校、八雲台小学校、北ノ台小学校、調布中学校、第三中学校、第六中学校に加え、新たに第三小学校、上ノ原小学校、緑ヶ丘小学校、調和小学校で実施し、合計20校で開設いたしました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携をより充実させ、地域の特性を活かした教育活動の充実を図りました。 コーディネーター情報交換会を開催し、各校の取組について情報交換を行いました。統括コーディネーターを中心に、各学校の取組の工夫などを共有するとともに、活動への助言を行いました。
<p>9 教員の資質・能力向上（指導室）</p> <p>決算見込額：96万6000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>児童・生徒の健やかな成長に向け、増加傾向にある若手教員の指導力向上と、人権感覚に優れた教員の育成など、教員の資質、能力向上を目指し、教育経営研究室の研究者と連携し、効果的な研修体制の確立と研修の実施に努めました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 担当指導主事、学校経営研究室及び「調布市授業力向上推進講師」が連携し、若手教員等への研修や授業研究の充実に努め、学校組織の一員として、指導力を身に付けるよう努めました。
<p>10 学校における働き方改革の推進（指導室）</p> <p>決算見込額：5298万円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>「調布市立学校における働き方改革プラン」に基づき、校務支援システム等の環境整備をすることにより、学校教育の質の維持向上を図りました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「調布市立学校における働き方改革プラン」の内容について、計画的に、学校と協力して目標達成に取り組みました。

<p>11 オリンピック・パラリンピック教育の推進（指導室）</p> <p>決算見込額：571万2000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>市内市立小・中学校全校がオリンピック・パラリンピック教育推進校に指定されたことから、オリンピック・パラリンピックの歴史や精神、スポーツや交流、国際理解や日本の伝統文化・芸能、環境やボランティアの4つのテーマを基本に、学ぶ（知る）、観る、する（体験・交流）、支えるの4つのアクションを結びつけた多彩な教育活動を展開して、運動・スポーツに親しむ児童・生徒を育成し、基礎体力の向上を図りました。</p> <p>平成30年度に引き続き、市内市立小学校全校が参加し、タグラグビー大会を実施するなど、関係機関と連携し、タグラグビーの普及・啓発等、機運醸成を図りました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4つのテーマに基づいた年間指導計画を作成・活用し、2020年東京大会の開催に向けて、児童・生徒の関わりを深めました。 ・車いすバスケットボールの国際大会の観戦や日本代表選手とのふれあいに等より、オリンピック・パラリンピックへの理解を深めました。
<p>12 体力向上への支援（指導室）</p> <p>決算見込額：289万9000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>児童・生徒の体力面や運動習慣等の実態を把握しながら、体力向上や健康増進等を推進するとともに、地域学校協働活動推進事業を活用した部活動外部指導員・水泳指導員・授業補助員などを通じ、児童・生徒の体力向上に向けた支援に取り組みました。</p> <p>また、令和元年度、令和2年度に東京都から「国際的なスポーツ大会を契機とした体力向上事業」に指定されたことから、運動・スポーツに親しむことができる機会や場を設定しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働活動推進事業における部活動支援に引き続き取り組むとともに、水泳指導員等の活用についても充実を図りました。 ・「国際的なスポーツ大会を契機とした体力向上事業」を通じて「する・みる・支える・知る」のスポーツの多様な関わり方の推進に取り組みました。
<p>13 スクールカウンセリングの充実（指導室）</p> <p>決算見込額：1553万1000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>市内市立小・中学校全校にスクールカウンセラーを配置し、様々な悩みや課題を抱えている児童・生徒に対して、カウンセリング活動を行い、保護者や教職員に対して助言・援助を行いました。</p> <p>小学校5年生、中学校1年生に対して全員面接を実施し、日頃から、児童・生徒がスクールカウンセラーに相談しやすい環境を整えました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での指導内容や教職員等との連携を深めました。
<p>14 ICT教育の推進（指導室）</p> <p>決算見込額：1億3172万4000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>ICT教育の推進を図るために、小学校10校及び中学校8校の教員に配置しているノートパソコンのタブレット兼用端末への切り替えを行い、市内市立小・中学校全校の切替が完了しました。また、小・中学校に設置しているパソコン教室を含めて、今後の児童・生徒用のタブレット端末の整備について検討しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校の教員がタブレットPCを活用した授業が行えるよう、教員を対象とした研修を実施しました。
<p>15 不登校児童・生徒への支援（指導室）</p> <p>決算見込額：680万1000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>適応指導教室「太陽の子」や分教室型の不登校特例校「第七中学校はしうち教室」の運営により、不登校児童・生徒に対し、教育の機会を提供するとともに、メンタルフレンド等の不登校プロジェクトを通じ、一人一人の実情に合わせたきめ細かな支援を実施しました。</p> <p>また、適応指導教室「太陽の子」を調布市民大町スポーツ施設の敷地内へ移転整備しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一時的に教育会館内に開設している小学校適応指導教室（太陽の子）の円滑な運営に努めました。 ・不登校特例校分教室「第七中学校はしうち教室」の環境整備に引き続き努めました。
<p>16 リーダー養成講習会の実施（社会教育課）</p> <p>決算見込額：323万6000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>ジュニアリーダー講習会、シニアリーダー講習会を開催することで、</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度もリーダー養成講習会受講生が青少年表彰で表彰される等、地域で活躍できる人材養成につ

<p>地域で活躍できるリーダーを養成するとともに、青少年の健全育成を図りました。</p>	<p>なげることができました。</p>
<p>17 成人式の開催（社会教育課） 決算見込額：268万1000円 <基本計画事業 行革P その他> 20歳前後で組織する成人式実行員会を組織し、成人式の企画・運営を行うことで、成人式の内容の充実を図りました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成人式の内容の充実に努めました。
<p>18 相談事業（教育相談所） 決算見込額：5351万6000円 <基本計画事業 行革P その他> 来所相談・就学相談ともに相談件数は減少しました。来所相談・就学相談では土曜相談を試行実施しました。相談日は月1回、令和元年10月より計7回実施（11月は2回）。 電話相談では、相談体制を見直し、新たに心理職を相談員に加え、教育・心理の専門家が相談者に寄り添い丁寧な対応に努めました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来所相談年間受付件数 平成30年度 509件 令和元年度 455件 ・就学相談年間受付件数 平成30年度 474件 うち小・校内通級教室200件 令和元年度 449件 うち小・校内通級教室171件 ・巡回相談件数 平成30年度 96件 令和元年度 81件
<p>19 地域に根差した公民館活動の推進（公民館） 決算見込額：447万円 <基本計画事業 行革P その他> 3公民館とも、年間を通じて、青少年教育事業、成人教育事業、高齢者教育事業、家庭教育事業、国際理解教育事業等多様な分野で講座等を実施しました。実施に当たっては、地域特性や社会問題となっている事象などを考慮し、高齢者から子どもまで多くの方に参加いただきました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3公民館とも、地域の特性を活かした青少年教育事業、成人教育事業、高齢者教育事業、家庭教育事業、国際理解教育事業を年間を通して実施し、多くの地域の方に参加いただきました。
<p>20 子ども読書活動の推進（図書館） 決算見込額：7万6240円 <基本計画事業 行革P その他> 「第3次調布市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書環境の整備・充実を図りました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに関する機関・部署との連携を図り、子どもの読書活動を推進しました。 ・地域で活動する団体や家庭へは、子どもの読書活動について啓発しました。
<p>21 市民の読書・調査活動への支援（図書館） 決算見込額：3億4747万5000円 <基本計画事業 P その他> 新刊の選定、発注、整理、装備、寄贈資料の授受、整理を行いました。また、視聴覚資料や水木しげる氏関連資料、映画資料についても充実を図りました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズにできる限り応えられるよう、蔵書の充実を図りました。また、映画関連資料についてもデジタル化を進め、貴重な資料として長期保存できるよう努めました。
<p>22 国史跡下布田遺跡の整備・活用（郷土博物館課） 決算見込額：584万6000円 <基本計画事業 行革P その他> 2か年で実施する整備基本計画策定事業の初年度として、国史跡下布田遺跡整備基本計画策定委員会を開催し、今後の史跡整備の基本理念である整備基本計画の策定に向けて審議・検討を行いました。 史跡の内容確認のため、詳細確認調査を実施し、既往調査の再確認や土層堆積状況の確認等を行いました。 史跡への理解と愛着を深めてもらうことを目的に、市民との協働事業「縄文の杜プロジェクト・千色工房」を開催し、史跡内の植物を利用した草木染めの体験学習や遺跡見学等を行いました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国庫補助事業等による公有化率は、93.34%となっています。 ・国史跡下布田遺跡保存活用計画策定委員会を3回開催し、整備基本計画策定委員会を3回開催しました。 ・史跡の詳細確認調査を実施しました。調査面積75.0㎡。 ・史跡内での体験学習会等を3回開催しました。

	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡公園の開園に向けて、地域住民が愛着や親しみを持てるような整備・活用を図る必要があります。
<p>23 郷土の歴史・文化を核とした展示・普及事業の推進（郷土博物館）</p> <p>決算見込額：248万8000円 <基本計画事業 行革P その他></p> <p>常設展示「調布の歴史」に加え、夏季・秋季の企画展、郷土学習展を開催するとともに、講演会・講座・見学会・体験学習会等の普及事業を実施することにより、郷土の歴史・文化遺産の活用に取り組みました。</p> <p>令和元年度は、調布市文化コミュニティ振興財団との共催企画として、移動展「市川鍔琅・悦也 父子展」を開催しました。</p> <p>学校教育連携事業として、団体見学の際の解説と民具体験、中学生職場体験の受入れ等を実施しました。団体見学では、事前打ち合わせやワークシート配布、子ども向けパネルの充実等、よりきめ細かな対応を心がけました。</p> <p>収蔵資料を活用した地域回想法の試みとして、デイサービス事業所への出前講座を実施しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・展示事業を13回実施しました。 ・普及事業を87件実施しました。 ・小学校・中学校・大学24校、延1760人が博物館を利用して学習しました。 ・移動展「市川鍔琅・悦也 父子展」には2452人の来館者がありました。 ・市民が地域を再発見し、地域づくりに参画するきっかけとなるようなサポート体制を充実させることが課題です。
<p>24 武者小路実篤記念館の管理・運営（武者小路実篤記念館）</p> <p>決算見込み額：3085万2000円<基本計画事業 行革P その他></p> <p>一般財団法人調布市武者小路実篤記念館の指定管理業務を通じて、武者小路実篤の業績を顕彰するための展示及び講座等を円滑かつ効率的に実施しました。また、施設の良好な日常管理を通じ、利用者がいつでも安全かつ快適に利用できるように努めました。</p> <p>特に令和元年度は実篤の代表的作品である「友情」発表100年を記念し、年間を通してリレー展示を実施しました。また、調布市が試合会場の一つになったラグビーワールドカップに合わせ、9月7日から10月25日まで財団理事長である武者小路知行氏所蔵の日本ラグビー史関連資料の特別展示を行いました。</p> <p>また、ツイッターを利用し、より積極的に情報を提供することで、実篤記念館事業の普及に努め、認知度を高めました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別展2回（春、秋の特別展）、企画展5回、及び実篤の「友情」発表100年を記念し、年間を通じてリレー展示を行いました。記念館の利用者は8344人で、前年度より1551人の減少となりました。今後も、記念館の来館促進のための事業の実施に努めます。